

年 組 ( 番) 名前

記入日 月 日

### 編集手帳

望んでかなうと思えたとき、人は努力する——これが一般的なような気がするけれど、ゲーテはほぼ反対のことを言っている。△望んでかなうことなら、努力に値しない▽◆△望んでもかなわないことだからこそ、努力する価値がある▽と解

積できるかもしれない。以前はピンとこなかったものの、ロッテ佐々木朗希投手(20)の降板にこのことかと思った◆何万試合と積み上げてきた日本のプロ野球で、過去十数回しかない完全試合を2度続けてやりそうになった。だが偉業を目前にした八

回を投げ終え、ベンチは降板の判断をくだした◆かたずをのんで試合を見守ったファンには残念な瞬間にちがいない。井口資仁監督の苦悩はいかばかりだろう。その場では誰にも正解の知れない決断である。過重負担がたたって投手の肩肘が壊れるのは球界の常識とはいえ、次の機会が巡り来るのか。同じ偉業に挑戦するには再び完全試合を達成しなければならず、望んでかなうことではあるまい◆すこし心配になったとき、ふとゲーテのことが励ましに聞こえた。令和の怪物が、□□に値する希望を持ったということだろう。

◇完全試合：先発投手が相手チームを一人も出塁させずに勝つこと。野球の場合、9回で勝つならば27人連続でアウトとする必要がある。  
◇「編集手帳」：読売新聞朝刊に毎日掲載されているコラム(短い読み物)

(2022年4月19日 読売新聞朝刊より)

1 佐々木投手が逃してしまった「偉業」とは、具体的にどのようなことですか。記事中の言葉を使って、15字以内で書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 筆者が傍線の一文で強調したかったのは、どのような思いですか。筆者の心情にあてはまるものを全て選び、番号を書きましょう。

- ① 未来のことは誰にもわからないのだから、考えても仕方がないという思い
- ② このような決断は井口監督ではなく、佐々木投手本人がすべきだという思い
- ③ 難しい判断を迫られた監督の心中を押し量り、決断を尊重したいという思い
- ④ もう二度と偉業は達成されないかもしれないことを、純粋に残念に思う気持ち
- ⑤ 偉業達成を逃した佐々木投手が失望しているだろうと、今後を心配する思い

--

3 □にあてはまる2字の言葉を、記事中から探して書きましょう。

--	--

編集手帳

望んでかなうと思えたとき、人は努力する——これが一般的のような気がするけれど、ゲータはほぼ反対のことを言っている。△望んでかなうことなら、努力に値しない▽△望んでもかなわないことだからこそ、努力する価値がある▽と解

積でできるかもしれない。以前はピンとこなかったものの、ロツテ佐々木朗希投手(20)の降板にこのことかと思った◆何万試合と積み上げてきた日本のプロ野球で、過去十数回しかない完全試合を2度続けてやりそうになった。だが偉業を目前にした八



◇完全試合：先発投手が相手チームを一人も出塁させずに勝つこと。野球の場合、9回で勝つならば27人連続でアウトとする必要がある。  
◇「編集手帳」：読売新聞朝刊に毎日掲載されているコラム(短い読み物)

回を投げ終え、ベンチは降板の判断をくだした◆かたずをのんで試合を見守ったファンには残念な瞬間にちがいない。井口資仁監督の苦悩はいかばかりだろう。その場では誰にも正解の知れない決断である。過重負担がたたって投手の肩肘が壊れるのは球界の常識とはいえ、次の機会が巡り来るのか。同じ偉業に挑戦するには再び完全試合を達成しなければならず、望んでかなうことではあるまい◆すこし心配になったとき、ふとゲータのことばが励ましに聞こえた。令和の怪物が、□□に値する希望を持ったということだろう。

1 佐々木投手が逃してしまった「偉業」とは、具体的にどのようなことですか。記事中の言葉を使って、15字以内で書きましょう。

【解答例】

完全試合を2度続けてやること

設問文に「記事中の言葉を使って」とある時は、なるべく記事と同じ表現を使った方が解答しやすく、間違いがありません。例えば、「完全試合を2度やること」と、書くと不正解になってしまいます。なぜ不正解か、わかりますか。

2 筆者が傍線の一文で強調したかったのは、どのような思いですか。筆者の心情にあてはまるものを全て選び、番号を書きましょう。

- ① 未来のことは誰にもわからないのだから、考えても仕方がないという思い
- ② このような決断は井口監督ではなく、佐々木投手本人がすべきだという思い
- ③ 難しい判断を迫られた監督の心中を推し量り、決断を尊重したいという思い
- ④ もう二度と偉業は達成されないかもしれないことを、純粋に残念に思う気持ち
- ⑤ 偉業達成を逃した佐々木投手が失望しているだろうと、今後を心配する思い

③ ④

「誰にも正解の知れない」とは、「偉業を優先して投げ続けた場合、けがにつながるかどうか」、「次の機会が巡り来るかどうか」の2つです。「その場」にいた「監督」と「ファン」の思いも手がかりとなります。

3 □にあてはまる2字の言葉を、記事中から探して書きましょう。

努力

直前に「ゲータのことばが励ましに聞こえた」とあることから、前半で引用したことばに関係していることがわかります。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

# 目先の勝利より 成長後押し

## ◆結果至上主義を改め将来性を考慮したスポーツ界の主な動き

- ・故障予防の観点で「週500球以内」の投球数制限を導入（日本高校野球連盟）
- ・ヘディングが発達中の脳に悪影響を及ぼすリスクを考慮し、15歳以下の練習について指針を公表（日本サッカー協会）
- ・「行き過ぎた勝利至上主義が散見」と全国小学生学年別大会を廃止し、新たなイベントを模索（全日本柔道連盟）
- ・「人間力」を備えたジュニア世代のアスリート育成制度を計画（日本オリンピック委員会）

プロ野球・千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手(20)が10日のオリックス・バファローズ戦で、一人の走者も出さない完全試合を史上最年少で達成した。佐々木投手は目先の結果よりも将来性を重んじる指導者たちに恵まれてきた。若い世代をどう育成していけばいいのか、他競技でも課題となっている。

佐々木投手が才能を開花させた背景に、指導者たちが先を見据えた育成に取り組んできたことがある。

2019年、岩手・大船渡高3年夏の県大会決勝は、登板機会がないまま敗退した。準決勝からの連投を避ける監督判断だった。同校35年ぶりの甲子園出場より故障防止を優先したのが、当時監督を務めていた国保陽平・同高教諭(35)だった。

スターの原石を預かった口ツテも慎重な育成法で成長を後押しした。プロ1年目は身体的な強さが規格外の潜在力に追いついていないとみて、一軍・二軍の試合で一切投げさせずに体作りを優先。2年目の昨季は5月に一軍デビューを飾らせた後も、登板間隔を長く空ける負担軽減策を用いた。

(2022年4月30日 読売新聞朝刊より)

野球やサッカー、柔道...

スポーツ界が「将来性」を重視した

育成へと変わりつつあるようです。

